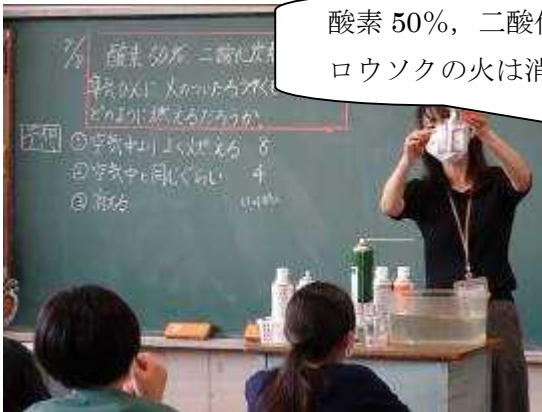


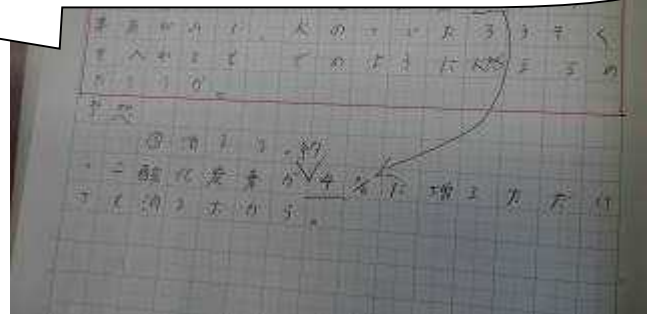
Th e ・ 学力向上

R 2 ・ 7 雀宮南小学校

7月8日に6年1組で理科の「ものが燃えるしくみ」の公開授業が行われました。ものを燃やすと酸素が減り二酸化炭素が増えることを実験で確かめた際、「二酸化炭素が増えると火が消える」と捉えていた子供もいました。そこで、燃焼と酸素の量とを関係付けて考えられるようにこの授業を設定し、「ものが燃えるためには酸素が一定量必要であり、二酸化炭素の量は関係ない」ということを確かめました。燃焼後は、二酸化炭素の増加量が大きいために酸素の変化量などの他の視点に気づきづらかったようです。自然現象に対して、先入観や一方向の見方だけではなく、様々な視点で見つめ、より妥当な考えを導き出せるような場を設定していきたいと思えます。なお、対面で着席する理科室がまだ使用できないため、教室での演示実験となりました。



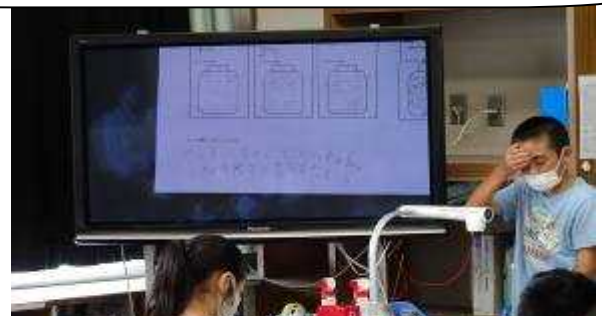
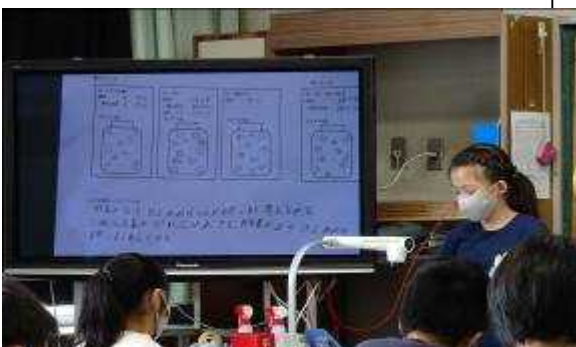
酸素 50%、二酸化炭素 50%集めた集気びんの中でロウソクを燃やすと、ロウソクの火は消えてしまうと多くの児童が捉えています。



しかし、空気中で燃やすよりも明るく燃えることを確認しました。



なぜ明るく燃えたのか、その理由を考えています。



ものが燃えるには、「二酸化炭素の量ではなく酸素の量に関係している」と考え直す様子が見られました。